

# STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信第2号 2024. 5. 13 発行



## インスリン注射の皮膚合併症

### 【インスリンボール】

インスリン自体がアミロイド蛋白を形成し、皮下に限局性に沈着する硬い腫瘤。著しいインスリン吸収障害をきたす。



### 【リポジストロフィー】

注射部位に脂肪組織の異常が起こる。

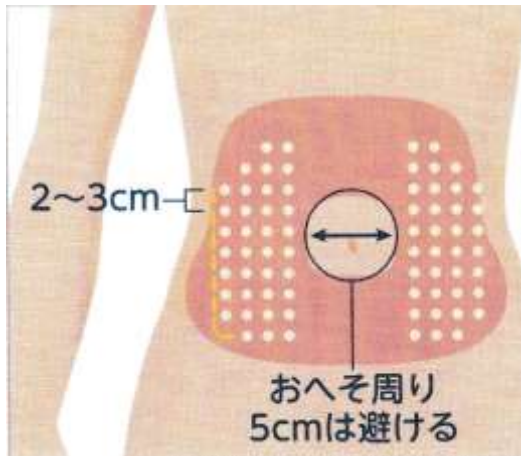
**リポハイパートロフィー（脂肪増生）** インスリンボールとの違いはやわらかいことが特徴  
**リポアトロフィー（脂肪委縮）**

※インスリンボールとリポハイパートロフィーは触診のみでは鑑別できないことが多く、CT/MRI ではハイパートロフィーは正常脂肪組織に似た所見で、インスリンボールは筋肉と似た所見を呈する。

### 【インスリンアレルギー】

注射開始後 6 か月以内におこりやすい。全身性はまれで、局所性のアレルギー注射部位の斑点状の腫脹・発赤・掻痒感・疼痛を伴う。

## 《インスリン導入時は》



## 注射部位のサイト（場所）ローテーション（交替）

### の必要性を必ず説明

- インスリン注射歴 10 年以上
- HbA1c 8% 以上
- 投与インスリン量が多い
- 予想外の低血糖を呈する

上記の患者には、**注射部位を観察、触診**する。

患者は打ちやすい場所に繰り返し打つことが多く、左右を変えてもほぼ同じ位置に注射していることが多い。



同じ位置の注射で痛みが少なくなることも繰り返し注射する要因になっている

文責：成田